

## 解 答

問 1 1 照 2 目線 3 今晚 4 焼 5 徒競走  
6 訳 7 納入 8 構 9 暑 10 荷台  
11 皿 12 準備 13 祖父 14 洗面 15 裏木戸

問 2 雄ちゃんに話しかける言葉が見つからず、気が重かったから。

問 3 ア 問 4 ウ 問 5 味方をする

問 6 僕は雄二の家の仕事の悪口を言ってしまったのに、それを知らないおばさんに雄二と仲良くしてくれて感謝していると言われたから。

問 7 雄ちゃんのように親に可愛がられる良好な親子関係が、自分の家にはないと思ったから。

問 8 オ 問 9 a エ b イ 問 10 ア・オ

問 11 自分は親から期待されず、心配されてもいないと思い込んでいたが、本当は子どもたちの将来を思って無理をして働いてくれていると知り驚いた。そして、親の愛情に気づかずに反抗してばかりいた自分を恥じ、申し訳ない気持ちでいっぱいになったが、それをうまく伝えることができなくてもどかしい。

問 12 エ

問 13 自分の気持ちを素直に言葉にして伝えることができずに、つい意地を張ってしまうような、不器用で頑固な点。

## 解 説

問 1 1、4、6、8、9、15 が訓読みの漢字の書き取りで、その他の音読みの熟語などと合わせてバランスのよい出題です。5 の「徒競走」は「競争」としないように同音異義語に注意。

問 2 高井に雄二と仲直りしたほうがいとすめられた文弘（僕＝ブンちゃん）は、気がすすまないまま雄二の家へ向かった。しかし、自分から謝るのもいやだし、最初になんて言えばいいのかもわからないので、ますます気が重くなって、自転車のペダルを漕ぐ足も重くなったのです。

問 3 「偶然、通りかかっただけと言うつもりだった」ということから、文弘はおばさん（雄二の母）がケンカのことを知っているとは思っていないと想像できます。それなのに、いきなりケンカのことを謝られてしまい突然のことに驚いてしまったのです。

問 4 ケンカのことわざを話した文弘を前にして、雄二が言った「オレ、会わねーから」という息子の言葉を聞いて、おばさんは「拗ねちまって、男のくせにみつともない」と言っています。ほうきをつかんで雄二の部屋に向かおうとすることからも、おばさんのいらだちがわかります。

問 5 慣用語「肩を持つ」＝「味方をする」

問 6 仲良しの雄二の家の仕事（「汲み取り屋」であること）をバカにして仲たがってしまったことを文弘は気にしています。おばさんはそれを知らずに「それに、ほら、うちの仕事がね。随分、学校とかでからかわれてるんだろうし、雄二には厭な思いをさせてるんじゃないかってさ。それなのに、ブンちゃんは仲良くしてくれて」と文弘に感謝の気持ちを伝えています。文弘の後悔は大きくなったはずです。

問 7 「うちの親は違うけど……」と言うように、文弘は仕事で忙しい親にあまりかまわれていないと思っています。それに比べて、雄二はきびしく叱られることはあっても、両親にとっても可愛がられていることを知り、うらやましく思い嫉妬を感じたのです。

問 8 雄二がケンカの原因をくわしく話していないことを知り、自分の不用意な発言が雄二を苦しめていることを知り文弘は後悔しています。自分のために、これ以上雄二とおばさんの関係を悪くしたくないと思っているはずです。

問 9 「ひるむ」＝おじけづく、「ぶっきらぼう」＝愛想がない

問 10 文弘の父と母が子供たちの将来のことを案じて話し合っている場面です。「オレだって、ヤツらを遊びに連れてってやりてえさ」→イ、「稼いでうち建てたら、ヤツらにだって部屋も持たしてやれるし～ふかふかのベッドだって、全部揃えてやる」→ウ、「それには大学くらい出してやんねえと、あいつに厭な思いはさせたくねえ」→エと具体的に読み取ることができます。ア「反抗期からぬけだして～」と、オ「～自分の跡を継いでほしい」がありません。

問 11 いつも忙しくしているばかりで、遊びにも連れて行ってくれず、欲しいものもなかなか買ってもらえずにいたので、文弘は親からあまり愛されていないのではないかと考えていたのでしょう。雄二の家と比較して、またそれを強く感じ、なんとなく親が恋しくなって工場へ足を運びました。そこで両親の会話を盗み聞きして、本当は子どもたちの将来のことを考えて無理をして働いてくれていることを知ることとなります。親の愛情に気づかずに反抗的な態度をとっていたことを情けなく恥ずかしく思ったはずです。両親に対して申し訳なく思いましたが、それをうまく言葉にすることもできないので、「手伝う」という行動で感謝したかったのです。父親に何度も拒否されても、手伝いをやめなかった文弘の態度がそのもどかしい気持ちをよく表しています。

- 問12 夫婦ですから文弘の母は、父親のことをよくわかっているはずです。とてもやさしい子ども思いの父親ですが、口べたで不器用なこともよくわかっているので、文博に父親の気持ちを理解してほしいと願っているのです。
- 問13 文弘も父親も自分の気持ちを素直に表現することができていません。照れてしまったり、意地をはってしまったりすることが多いようです。文中では「ぶっきらぼう」「不器用」という言葉に注目しましょう。